

## 「名づけられた葉」

安城中部小学校長 稲留 雄一

正門横のナンキンハゼの葉がはらはらと散っています。ミニ明治用水横のナンキンハゼはまさに紅葉の盛りです。ナンキンハゼの紅葉は、一枚一枚の葉の赤色の深みや黄色の鮮やかさに違いがあります。また、色の変化もそれぞれ違って、それぞれが素敵です。それでいて全体の調和が実に見事です。モミジもいいですが、個人的にはやっぱりナンキンハゼが秋が一番だと思っています。

一枚ずつの葉を眺めていたら、昔合唱コンクールで盛んに歌われていた「名づけられた葉」を思い出しました。歌い出しはいきなり「ポプラの木には…」なのですが。

だからわたし 考えなければならない 誰のまねでもない  
葉脈の走らせ方を 刻みのいれ方を せいっぱい緑をかがやかせて  
うつくしく散る法を 名づけられた葉なのだから

(名づけられた葉 作詞 新川和江 作曲 飯沼信義)

みんな同じように見える、みんな同じように呼ばれる「葉」です。でも一枚一枚にそれぞれの良さがあり、違いがあり、美しさがあります。いつしか、私の目の前を登校していく子どもたちの姿と重なっていました。

11月13日のスポーツフェスティバルに向けてのご支援、並びに当日たくさんいただきましたご声援に心より感謝申し上げます。競技や演技に取り組む子どもたちの歯を食いしばっている顔や楽しそうな笑顔がとても素敵でした。応援席から送られる声援やダンスを一緒に踊る姿からは、会場の一体感も感じました。器具係の素早い動きや応援をリードする各団の団長らの頑張りも大変印象的でした。

一方、みんなと一緒に活動することを苦手としている子どももいるので、中部小学校では、そういう子どもへの声掛けを含めた配慮を大切にしようとして共通理解しながら進めてきました。スポーツフェスティバルなどの行事のなかで、みんなと笑顔いっぱい楽しく取り組んでくれることを目標として企画・準備・運営をしているのですが、その陰でつらい思いをしている子どももいるかもしれないということを忘れてはいけなく考えています。子ども一人一人、考え方や感じ方が違います。無理に「みんなと一緒に頑張りなさい」は、その子どもにとっては残酷な脅迫になってしまうこともあります。もちろん、活動を通してその楽しさを感じて、自分から少しずつでもかかわってこうとする姿があれば、それを全力で支えますし、そうなることを願っているのですが、大きな落とし穴もあるのではないかといつも考える必要があります。

子どもには、それぞれの良さがあり、輝く場面があり、頑張れることがあります。「苦手」なことを補うよりも、たくさんの経験の中でその子らしさが発揮できる場面を大切に、「得意」や「良さ」を認め、支え、伸ばしてあげることで、一人一人が自信をもち、さらに成長していってくれるのではないかと考えています。

保護者の皆様や地域の皆様はスポーツフェスティバルでの子どもたちをご覧になって、どのようにお感じになったのでしょうか。ご感想などを寄せていただくと、今後の学校教育に生かすことができます。連絡帳でも、保護者会の折にでも結構です。子どもたちのために、これからの中部小学校のためにどうぞよろしくお願いいたします。